

# 第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 05010150

政策目標	2	ぬくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～	会計区分	7	介護保険事業会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	7	高齢者支援の充実	事業優先度		B	
単位施策	1	地域包括ケアの推進	政策事務分類	4	法定自治事務	
事業名	地域支援事業(保健係)		見直し年度			
事業期間	平成25年度～平成29年度		担当課	5	保健福祉課	
事業主体	雄武町		関係課	6	地域包括支援センター	
事業指標	介護予防事業参加者数				#N/A	
事業目標	前年度比の増		ハード/ソフト 事業区分	2	ソフト事業	
住民参加 住民協働	有	主体的な介護予防への取組の実践	関係例規・法令名	有	介護保険法	
			関係個別計画名	有	介護保険事業計画・高齢者保健福祉計画	

全体計画 事業内容		平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容	
計 画 内 容	要介護になるおそれのある高齢者に対し、介護 予防に資する事業を提供することにより、要介護 者の増高を防止し、高齢者の福祉の向上を図る。	○介護予防2次予防高齢者施策 ・うつ、認知症予防、口腔機能 向上、栄養改善事業  ○介護予防1次予防高齢者施策 ・老人クラブ健康相談、健康教育 事業 ・転倒予防運動教室の開催 ・高齢者栄養改善事業	○介護予防2次予防高齢者施策 ・うつ、認知症予防、口腔機能 向上、栄養改善事業  ○介護予防1次予防高齢者施策 ・老人クラブ健康相談、健康教育 事業 ・転倒予防運動教室の開催 ・高齢者栄養改善事業	○介護予防2次予防高齢者施策 ・うつ、認知症予防、口腔機能 向上、栄養改善事業  ○介護予防1次予防高齢者施策 ・老人クラブ健康相談、健康教育 事業 ・転倒予防運動教室の開催 ・高齢者栄養改善事業	○介護予防2次予防高齢者施策 ・うつ、認知症予防、口腔機能 向上、栄養改善事業  ○介護予防1次予防高齢者施策 ・老人クラブ健康相談、健康教育 事業 ・転倒予防運動教室の開催 ・高齢者栄養改善事業	○一般介護予防事業 ・転倒予防教室の開催 ・高齢者栄養改善事業の実施 ・高齢者等口腔記向上事業の実施	
	事業費(千円)	4,865	973	973	973	973	
計 画 事 業 費	財源内訳						
	国庫支出金	1,215	243	243	243	243	
	道支出金	610	122	122	122	122	
	地方債	0					
	その他	2,020	404	404	404	404	
実 績 事 業 費	財源内訳	1,020	204	204	204	204	
	国庫支出金	4,727	723	731	973	867	
	道支出金	1,180	180	183	243	216	
	地方債	590	90	91	122	108	
	その他	1,940	300	303	404	352	
	1,017	153	154	204	191	315	
関 連 事 項	特定財源の名称 その他 ・地域支援事業交付金 ・一般会計繰入金	【評価・実績】	(実施内容等) ・健康相談他 482名 ・栄養改善事業 66名 ・口腔機能向上 23名 合計 571名  ※事務事業評価結果 B-継続/現状維持	(実施内容等) ・健康相談他 528名 ・栄養改善事業 46名 ・口腔機能向上 24名 合計 598名  ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) ・健康相談他 489名 ・栄養改善事業 67名 ・口腔機能向上 22名 合計 578名  ※事務事業評価結果 B-継続/現状維持	(実施内容等) ・健康相談他 401名 ・栄養改善事業 47名 ・口腔機能向上 11名 合計 459名  ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	事業参加者数の増	事業参加者数の増	事業参加者数の増	事業参加者数の増	
	第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	74%	75%	100%	89%	147%
		全体達成率	15%	30%	50%	68%	97%
		備考欄					

事業名	地域支援事業(保健係)	評価者 管理職 職氏名	保健福祉課長	山崎 佳之
		評価者 作成者 職氏名	保健係長	小野 美和

様式1  
平成29年度実施  
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	65歳以上の町民	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	介護予防事業参加者数								
【抱える課題やニーズは】	加齢に伴う心身機能低下により、介護を予防する状況になる恐れがある。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	介護を要する状態になることを防ぐ。	① 介護予防事業参加数(前年比)	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成29年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>459</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>479</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>104.4 %</td></tr> </table>	目標年度	平成29年度	目標値	459	実績値	479	達成度	104.4 %
目標年度	平成29年度										
目標値	459										
実績値	479										
達成度	104.4 %										
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	心身の自立性を保持し、健康で活動的な高齢者が増える。	②	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成29年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td></td></tr> <tr><td>実績値</td><td></td></tr> <tr><td>達成度</td><td>#DIV/0! %</td></tr> </table>	目標年度	平成29年度	目標値		実績値		達成度	#DIV/0! %
目標年度	平成29年度										
目標値											
実績値											
達成度	#DIV/0! %										
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	健康相談、健康講話の実施	老人クラブ会員等を対象とし健康相談、健康講話、運動・栄養講話、調理実習等を実施した。									
	家庭訪問による健康支援の実施	家庭訪問により、健康管理等に関する個別相談を実施した。									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	介護保険法に基づき、介護予防事業は市町村義務である。高齢社会のため、とても重要な事業である。
必要/概ね必要	<input checked="" type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	自主活動と合わせて、介護予防の情報提供の機会を確保することができ、町民の介護予防に資することができた。
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input checked="" type="checkbox"/>	判断の理由	老人クラブ等の高齢者団体の協力を得て、効率的に事業実施ができた。転倒予防教室等は各種団体や教育委員会と合同実施とし効率化が図られた。
効率的/概ね効率的	<input checked="" type="checkbox"/>	事業費抑制	
課題あり	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input checked="" type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input checked="" type="checkbox"/>	判断の理由	調理実習のみ実費徴収した。その他は経済的負担はない。老人クラブと日程や内容調整等を行うこと、未加入者も参加できるような周知を行う等公平を保つことができた。
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
課題あり	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等  
 B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等  
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等  
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
健康づくりや介護予防に対し意識啓発を行うことができた。		

今後の展開方向  
(Action)

継続/現状維持		
高齢者人口、割合増等から介護予防はとても重要である。地域包括支援センターなど関係機関との連携のもと、介護予防に資する事業に努める。		

※展開方向の区分  
継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更  
終了 休止 廃止